

足元からの学校の安全保障

教育行財政研究所主宰 中村文夫

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

構成は、第1章「はじめの問（住友剛さん）」、第2章「インクルーシブ教育（一木玲子さん）」、第3章「学校統廃合と働かせ方改革（武波謙三さん）」、第4章「学校給食の無償化（中村文夫）」、第5章「デジタル教育（中村文夫）」、第6章「学力（佐藤雄哉さん）」、第7章「安心して授業に臨めない現状（池田賢市さん）」、第8章「まとめは地域の学校（中村文夫）」である。この部分は都政新報に載せた「世均

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

構成は、第1章「はじめの問（住友剛さん）」、第2章「インクルーシブ教育（一木玲子さん）」、第3章「学校統廃合と働かせ方改革（武波謙三さん）」、第4章「学校給食の無償化（中村文夫）」、第5章「デジタル教育（中村文夫）」、第6章「学力（佐藤雄哉さん）」、第7章「安心して授業に臨めない現状（池田賢市さん）」、第8章「まとめは地域の学校（中村文夫）」である。この部分は都政新報に載せた「世均

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

構成は、第1章「はじめの問（住友剛さん）」、第2章「インクルーシブ教育（一木玲子さん）」、第3章「学校統廃合と働かせ方改革（武波謙三さん）」、第4章「学校給食の無償化（中村文夫）」、第5章「デジタル教育（中村文夫）」、第6章「学力（佐藤雄哉さん）」、第7章「安心して授業に臨めない現状（池田賢市さん）」、第8章「まとめは地域の学校（中村文夫）」である。この部分は都政新報に載せた「世均

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

構成は、第1章「はじめの問（住友剛さん）」、第2章「インクルーシブ教育（一木玲子さん）」、第3章「学校統廃合と働かせ方改革（武波謙三さん）」、第4章「学校給食の無償化（中村文夫）」、第5章「デジタル教育（中村文夫）」、第6章「学力（佐藤雄哉さん）」、第7章「安心して授業に臨めない現状（池田賢市さん）」、第8章「まとめは地域の学校（中村文夫）」である。この部分は都政新報に載せた「世均

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

構成は、第1章「はじめの問（住友剛さん）」、第2章「インクルーシブ教育（一木玲子さん）」、第3章「学校統廃合と働かせ方改革（武波謙三さん）」、第4章「学校給食の無償化（中村文夫）」、第5章「デジタル教育（中村文夫）」、第6章「学力（佐藤雄哉さん）」、第7章「安心して授業に臨めない現状（池田賢市さん）」、第8章「まとめは地域の学校（中村文夫）」である。この部分は都政新報に載せた「世均

親の財布を心配せずに学校給食が摂れるために、無償化がある。それ以外にも様々な教育機会の平等を現実化する世均しの教育が始まっている。A・センや国連の提唱する「人間の安全保障」を批判的に取り入れて、『足元からの学校の安全保障―無償化・学校環境・学力・インクルーシブ教育』を編んだ。

◆学校の安全保障の視点から改善の積み重ねを

第5章、教育は子どもをテータの塊とみなし、AIに委ねてグローバル人材へ効率的に仕上げるものでよいのか。それでは差別や格差を助長するだけの学力の形成だ、と私は考える。さらにマイナンバーカードにひもづけようとしている。それはまるで「国民」を効率的に適正配分する情報管理国家の実験場である。

第6章、子どもが将来不利を被るリスクの排除のために学力向上を求める考えに対して、岩井登子さんの「一緒に考える場を持つ」教育実践を考察した佐藤さんは同和教育での学力の在り方を問うて

第7章、「子どもも教員も安心して授業に臨めない」という現状の克服にも第6章の視点はつながっていく。能力主義と優性思想が日本の学校教育を支えている思想である

と池田さんは指摘している。「今後は予測不可能な時代」というOECDの認識をそのままに取り込んだ文部科学省の教育観、それに基づく授業では安心できるわけがない。

第1章、このような学校は「学ぶ権利が脆弱な状況にある学校」であり、「様々な苦しみや悲しみを抱えながら生活する子どもと保護者」が生まれてしまうと住友さんはみ

る。重大事件が発生した時に認識のずれを広げる法的なアプローチからの学校の「正常化」では、当事者は学校や地

域に居場所がなくなる。苦しみや悲しみに寄り添った事件の究明と子どもの権利条約の趣旨に沿った学校コミュニティの再生をめざすことを住友さんは求める。

第3章、教育の器である公立学校の存続自体も困難になっている。この25年間で青森、秋田両県では45%の小学校、岩手、山形両県では30%の中学校が廃校となった。子どもの足で通える公立学校がなくなり、無学校地帯が広がる。その空白を市場にするように私立通信制学校が拡大している。地域を持続させるためには、まず小さな学校の良さを共有することである。武波さんは、判断の基準である学校教育法施行規則の標準学級規模を6〜12学級に改善せよ、と画期的な提案をしている。

既存の学校では、多様な職員が「働かせ方改革」（職種間や非正規、民間委託職員間の分断）で追い込まれ疲弊している。働かざる者の安全保障は、教員の定数改善だけでなく、学校のすべての職員の労働条件の改善と職種を超えた平等な人間関係を作ること可能となる。

いる。

第7章、「子どもも教員も安心して授業に臨めない」という現状の克服にも第6章の視点はつながっていく。能力主義と優性思想が日本の学校教育を支えている思想である

と池田さんは指摘している。「今後は予測不可能な時代」というOECDの認識をそのままに取り込んだ文部科学省の教育観、それに基づく授業では安心できるわけがない。

第1章、このような学校は「学ぶ権利が脆弱な状況にある学校」であり、「様々な苦しみや悲しみを抱えながら生活する子どもと保護者」が生まれてしまうと住友さんはみ

る。重大事件が発生した時に認識のずれを広げる法的なアプローチからの学校の「正常化」では、当事者は学校や地

域に居場所がなくなる。苦しみや悲しみに寄り添った事件の究明と子どもの権利条約の趣旨に沿った学校コミュニティの再生をめざすことを住友さんは求める。

第3章、教育の器である公立学校の存続自体も困難になっている。この25年間で青森、秋田両県では45%の小学校、岩手、山形両県では30%の中学校が廃校となった。子どもの足で通える公立学校がなくなり、無学校地帯が広がる。その空白を市場にするように私立通信制学校が拡大している。地域を持続させるためには、まず小さな学校の良さを共有することである。武波さんは、判断の基準である学校教育法施行規則の標準学級規模を6〜12学級に改善せよ、と画期的な提案をしている。

既存の学校では、多様な職員が「働かせ方改革」（職種間や非正規、民間委託職員間の分断）で追い込まれ疲弊している。働かざる者の安全保障は、教員の定数改善だけでなく、学校のすべての職員の労働条件の改善と職種を超えた平等な人間関係を作ること可能となる。

既存の学校では、多様な職員が「働かせ方改革」（職種間や非正規、民間委託職員間の分断）で追い込まれ疲弊している。働かざる者の安全保障は、教員の定数改善だけでなく、学校のすべての職員の労働条件の改善と職種を超えた平等な人間関係を作ること可能となる。

既存の学校では、多様な職員が「働かせ方改革」（職種間や非正規、民間委託職員間の分断）で追い込まれ疲弊している。働かざる者の安全保障は、教員の定数改善だけでなく、学校のすべての職員の労働条件の改善と職種を超えた平等な人間関係を作ること可能となる。

既存の学校では、多様な職員が「働かせ方改革」（職種間や非正規、民間委託職員間の分断）で追い込まれ疲弊している。働かざる者の安全保障は、教員の定数改善だけでなく、学校のすべての職員の労働条件の改善と職種を超えた平等な人間関係を作ること可能となる。

◆「地域立学校」で世均しの教育を

義務制小中特別支援学校の設置者はほとんどが自治体である。いわば「地域立学校」なのである。自治体による自前の公教育を補完する役割に国は徹すべき時に来ていると思う。各章での刺激的な提案を実現するには子どもも含めた住民自治が第一である。教育委員の公選制復活や、学校運営協議会の住民公選制の実施により、「わたしたちの学校」としての思いが高まると私は「まとめにかえて」に書いた。

編んだ思いは、格差と貧困が広がる社会を危機としてとらえ、地域で最も安全安心な場所としての地域立学校、そこから平等を求める世均しの教育を学びあいで作ることである。ある友人の感想は「ドキドキした」と。思いが伝わったのならうれしい。

『足元からの学校の安全保障』(明石書店、2750円)の編著を務めた中村文夫氏に、21世紀の教育を様々な角度から展望する同書の紹介をお願いした。

◇

『足元からの学校の安全保障』(明石書店、2750円)の編著を務めた中村文夫氏に、21世紀の教育を様々な角度から展望する同書の紹介をお願いした。

◇

『足元からの学校の安全保障』(明石書店、2750円)の編著を務めた中村文夫氏に、21世紀の教育を様々な角度から展望する同書の紹介をお願いした。

◇

『足元からの学校の安全保障』(明石書店、2750円)の編著を務めた中村文夫氏に、21世紀の教育を様々な角度から展望する同書の紹介をお願いした。

◇

